



書評

中善則（編著）

## 『子どものための主権者教育 －大学生と行政でつくる アクティブ・ラーニング型選挙出前授業』



大阪国際大学短期大学部専任講師  
古田 雄一

本書は、京都市右京区選挙管理委員会と、近隣大学の学生から構成される「右京区学生選挙サポーター」が協働で作り上げてきた主権者教育の取り組みをまとめた一冊である。実践は、主に右京区内の小学校で行われ、内容は大学生による選挙劇、模擬投票、グループワークなどを組み合わせたものとなっている。

小学校では、高校等と比べると主権者教育の蓄積も広がりもいまだ十分ではない。そうした中、本実践は、楽しい学習活動を通じて

子どもに投票や選挙に興味を持たせることはもちろん、もう一步踏み込んで、複数の争点を踏まえて選択できる思慮深い主権者としての力を育む工夫や、学習を一過性のものにせず授業後に家庭での会話を促す工夫など、主権者教育の可能性を意欲的に模索した実践となっている。また、授業を作る大学生側も多くのことを学べるのもこうした実践の魅力である。

加えて、評者が感じた本書の特色は、一つの実践を大変詳しく、また様々な角度から

紹介している点だ。本書では、豊富な資料も用いて授業実践の詳細が描かれ、授業の開発・実施・改善の過程、児童・保護者・小学校教員の声、実践に携わってきた学生や行政担当者の振り返りなども掲載されており、実践を作り上げていくプロセスや、その背後にある議論や思考を読者も追体験できる。そうした点で、本書は、模擬投票を中心とした主権者教育のあり方について議論する上で、恰好の題材となる一冊だと思われる。

### お知らせ

#### ～第5回シティズンシップ教育ミーティング開催～

- ▶ 日時 2018年3月24日(土)13:00～3月25日(日)17:00
- ▶ 場所 立教大学池袋キャンパス 太刀川記念館・12号館(東京都豊島区)

日本シティズンシップ教育フォーラム(J-CF)では、年次大会の位置づけでもある「シティズンシップ教育ミーティング」を以下の通り、開催いたします。

「18歳選挙権」の実現や新科目「公共」の設置、道徳教育の教科化、地方創生の実現に向けた学校地域協働の推進や地域問題解決学習の広がりなど、シティズンシップ教育に関わる社会動向は大きな変化が見られます。こうした状況下だからこそ、様々な視点の人々と対話を通じ、「見晴らし」をよくした上で、自らの現場でどのような目的・目標を掲げて、どのような教育実践や参画推進、政策立案を行えばいいのかを考えたいものです。

今回の全体会では、私たちを取り巻く情報環境に着目します。市民が政治に参加したり、社会活動を展開したりしていく際、その判断や意思決定には情報の入手と吟味、そして、それを踏まえた発信を行なっていくことになりますが、「ポスト真実」の問題が指摘される現在、情報との付き合い方を誤れば、自分に都合のいい情報に囮まれて、視野の奥行きも広がりも欠いて視点が偏ってしまう可能性があります。不完全な情報に踊らされてしまうこともあるでしょう。こうした陥穽に嵌らず、想像力豊かな市民が育つにはどうすればいいのでしょうか。この問い合わせみなさんと一緒に

に解いていきたいと考えています。

分科会では、小・中・高・大でそれぞれどのような広がりが可能なのか、また、今行われている実践を学校外の機関との協働で深めていくどこまで到達できるのかといった「学びのデザイン」の話から、そういった学びのデザイナーとしての教師教育のあり方に至るところまで扱います。

前回から始めた「発表証明書」を発行する形での「高校生・大学生発表セッション」は今回も継続して設けられます。普段の学習や活動を発表する機会としてご活用ください！

既に日本各地では様々なシティズンシップ教育の実践や研究、政策形成が展開されてきています。異なる観点や力点で動いている関係者が集まり、議論を交わしながら、その多様性を日本のシティズンシップ教育の発展への活力としていければと願っています。

シティズンシップ教育につながる、多くの方々のご参加をお待ちしています。

▶ 詳しくは、以下URLをご覧ください。

[http://jcef.jp/news/report/networkmeeting/20180115\\_1147/](http://jcef.jp/news/report/networkmeeting/20180115_1147/)

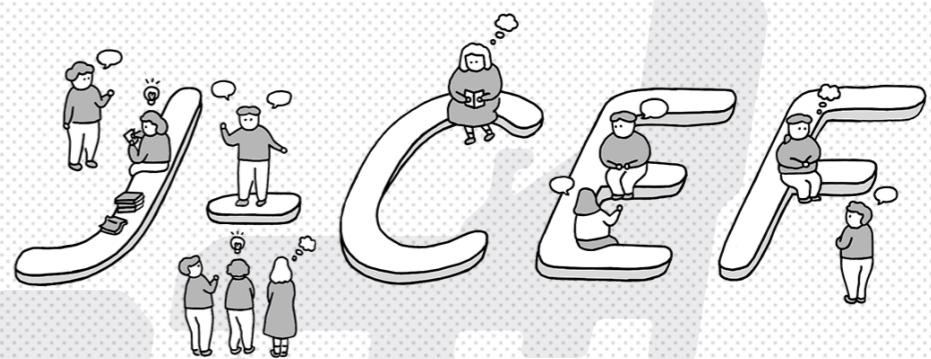
▶ お申し込みは、こちらへ。

<https://ssl.kokucheese.com/event/entry/503244/>

## J-CF NEWS

No.14

2017 AUTUMN



### 02 リレーエッセイ

『ポスト・模擬選挙』～～主権者教育＝模擬選挙でいいの？～  
／古野香織(中央大学法学部政治学科4年)

### 03 実践事例紹介

子ども達とともに立ち上げた「サギとの共生研究所～「落とし所のない問題」に向き合った半年間～  
／三浦一郎(姫路市立手柄小学校 教諭)

### 07 特集

シティズンシップ教育を進める上で何を大切にするべきか？  
／河原亮(広島大学大学院教育学研究科 博士課程後期)

### 09 連載

スウェーデンの学習サークルにみるシティズンシップ教育  
／両角達平(YEC(若者エンパワーメント委員会)創設・元代表・サポートー/NPO法人 Rights 理事)

### 10 推薦図書

教員に薦める5冊  
／黒崎洋介(神奈川県立瀬谷西高等学校 教諭)  
／杉浦真理(立命館宇治中学・高等学校 教諭)

### 12 書評

『子どものための主権者教育－大学生と行政でつくるアクティブ・ラーニング型選挙出前授業』  
(中善則 編著)  
／古田雄一(大阪国際大学短期大学部 専任講師)

### 12 お知らせ

第5回シティズンシップ教育ミーティング 開催のお知らせ





## リレーエッセイ

### 『ポスト・模擬選挙』へ – 主権者教育 = 模擬選挙でいいの？ –



中央大学法学部政治学科 4 年  
古野 香織

先日行われたJ-CEF スタディ・スタジオ TOKYO スタジオ vol.6において、「主権者教育 = 模擬選挙でいいの？～都議選での主権者教育授業体験から考える～」という話題提供をさせていただいた。このテーマは模擬選挙推進ネットワークの林先生から「挑戦的なテーマ」と苦笑されつつも、どうしてもこれをやりたい理由があった。

そもそもわたし自身、「模擬選挙」という形式で何度も高等学校の現場に入り、主権者教育の出前授業を行っていた立場である。これは中央大学の学生で組織したサークル活動の一環であったため、多い時には 70 名ほどの大学生ファシリテーターと共に、大学の付属高校の体育館を 2 つ貸切って模擬選挙を実施していた。これほど大規模に主権者教育を実施できること自体には非常に意義を感じていたが、ふと参院選の直前に「この授業はどれほど生徒にとって意味のあるものなのか」と疑問を持ってしまったのだ。当時、この模擬選挙は参議院選挙の公示後、かつ高校 3 年生を対象に実施する

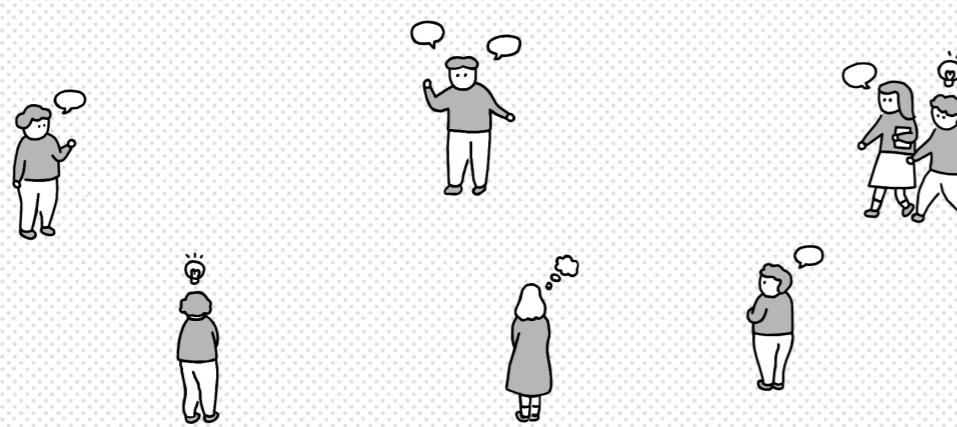
スケジュールとなっており、担当の先生方から「できるだけ政治的でない内容」にするようにと強く要望があった。当然私たちも相手の学校に迷惑をかけないよう十分配慮して内容を組み直し、結果「若者が政治に関心を持つにはどのような政策が良いか」といった議題にして、候補者を立て模擬投票を実施した。授業後アンケートでは、生徒の 9 割近くが「政治に関心を持った」「選挙に行こうと思った」等の感想を書いてくれたが、私の中の違和感は消えないままだった。

先日、突如発表された「解散総選挙」。最初は大義なき解散との声もあったが、次第に新党の設立や離党が相次ぎ、かなり情勢が読みにくい状態となっている。このため、公示後には有権者のための「わかりやすいメディア」が次々に登場した。各政党の主張、現在議論になっている政策のメリット・デメリット、自らの選挙区と立候補者、不在者投票のやり方、小選挙区と比例代表制の違い…

私が思うに、そもそも「有権者が選挙の直前に考えて考えなければならない事が多すぎる」

古野香織

(kekeke0924@gmail.com)



## 実践事例紹介

### 子ども達とともに立ち上げた「サギとの共生研究所」 –「落とし所のない問題」に向き合った半年間 –



姫路市立手柄小学校 教諭  
三浦 一郎

の群」だという。近年手柄山の東面にはサギの大規模なコロニー（集団繁殖地）が形成されており、ダイサギ、コサギ、アオサギをはじめとする 6 種類のサギ、合計数百羽が生息している。サギは姫路市の市鳥であり、姫路市民にとって身近に感じられ、愛されている野鳥である。しかし、職員室で聞いたサギのイメージは非常に悪かった。この手柄山と、サギのえさ場となっている船場川・姫路市中央卸売市場との間に本校は位置しているため、落ちてくるサギの糞やエサ、それから出る悪臭、鳴き声などに悩まされている。そうした中で児童・教職員はサギに対して嫌悪感を抱く傾向がある。

2000 年から鳴り物入りで、段階的に教育課程に組み込まれた総合的な学習の時間。当時は各種研究指定校や附属小学校などを中心に積極的に研究が進められた。唐木 [2015:21-22] は「現在のところ、シチズンシップ教育を最も導入しやすいのは、総合的な学習の時間である」とし、その理由を自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育成するという総合学習の目標がシチズンシップ教育の目指すところと軌を一にするという点、教育課程において教育内容が明示されている教科に比べて比較的柔軟に学習を計画できるという点としている。

しかし、現在一部の学校において「補充学習のような専ら教科の知識・技能の習得を図る教育が行われたり、学校行事と混同された実践が行われたりしている。」といった事例が見られる（中央教育審議会 [2016:46]）など、総合学習への理解が浸透しているとは言い難い。また官製・民間問わず教員対象の研修会においても、総合学習を真正面から取り扱う研修は多くはない。総合学習は停滞気味というのが現場に身を置いての感想である。

#### - 実施背景

手柄小学校は、姫路駅に南に数キロ南下したところに所在する中規模校である。その職員室から見える手柄山の東側の斜面には僅かではあるが手付かずの原生林がある。現在、本校に赴任してきたときに見た職員室からの光景は忘れない。手柄山の緑の背景が一面真っ白い点々に覆われている。聞くと「サギ



▲ 手柄山と小学校と市場の位置関係



▲ サギのふんまみれになった筆者の車



▲ 手柄山にあるサギのコロニー(集団繁殖地)

#### - 目的

これを本校の課題としながら「自然との共生」という観点から考えると極めて切実感のある学習材となる。身近にいる問題によって苦しんでいる人々の立場や、野生のサギが置かれている状況など問題が複合的に絡み合う課題に向き合い、一つ一つ解きほぐしながら、解決の糸口を見つけていくことで、主体的に課題に向き合おうとする子ども達の力を育成することをねらいとした。

#### - 取り組みの概要

##### (1) 「サギとの共生研究所」を立ち上げる

本单元の導入では、サギが姫路市の市鳥であること、そして姫路の愛称が白鷺城であることをはじめ、姫路のまちの至るところにシラサギの名を冠つけた名称があることを知らせた。そのように姫路のシンボルである反面、その糞便に悩む教職員、その悪臭に思わず鼻をつまむ後輩達がいることを示した。その上で「このままでええんか？」と問いかけた。すると、子ども達はこの問題に対して、考えていきたいという意欲的な姿勢を見てくれた。